

白岡市教育長賞

税金でできた大阪・関西万博

白岡市立菁莪中学校 三年

畑 中 小 和

二〇二五年、大阪・関西万博が開催されました。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、世界中の国々から地球規模の課題解決に向けたアイデアや技術が集結しました。地球的課題を解決するためなどの理由のもと開催され、多くの観光客や人々で賑わう大阪・関西万博ですが、これを開催するにあたって、考えられない量のお金が必要になったのではないかと思います。一体そのお金はどこから出ているのかと疑問に思い、インターネットで調べてみることにしました。すると、大阪・関西万博には税金が使われていることが分かりました。そうすると、参加国から開催のためのお金は出していないのか、具体的には何に税金を使っているのか、などいくつかの疑問が新たに生まれました。なので今回は、大阪・関西万博と税金の関わりについてまとめていきます。

まず初めに、大阪・関西万博において、税金を何に使ったのかですが、主に会場建設費運営費、そして万博後のレガシー創出に向けた事業に使われました。大阪・関西万博の会場の広さは、大阪の人気テーマパークであるUSJの約3倍で、会場建設費は二千三百五十億円もの膨大な税金を取られていたと

いう事実にとっても驚きました。しかも、この時点でたくさんの税金を使っているのに、運営費などそれ以外の費用も税金でまかなわれているなんて信じられませんでした。個人的には二千三百五十億もの税金を使うのなら、税金を下げて私たち国民の負担を減らして欲しいと思いました。

次に大阪・関西万博を開催するにあたっての大阪市民への税金の影響についてです。大阪・関西万博にかかる大阪市民への負担について大阪市は、市民一人に換算すると約二万七千円になると説明しました。市の負担分約七百四十八億円を市の推計人口約二百七十七万人で割ると一人あたり二万七千円となったそうです。大阪での開催になったから大阪市民の方への税金の負担が増えたと考えると、とても申し訳ないという気持ちや、なぜ大阪市民だけがどのように多くの税金を払わなければいけなかったかという気持ちでいっぱいになりました。

このように地球規模の大きな物事を成し遂げるためには多くの資金がかかり、それが税金でまかなわれているということがわかりました。これからは、地球を良くするためには税金を使い、必要のないところでは無駄に使わずきちんと温存して、災害などが起きた際に使って欲しいです。